

インタビュー実施状況（概要）

青木委員

＜SNSの使い方＞

- ラインを一番よく使う。友達の電話番号やメールアドレスを知らない。
- ラインでは、電話よりも文字のやり取りをする方が多い。電話は早く伝えないとなら
いときに利用することが多い。
- メールを使うことはほとんどない。大学の教授にメールするぐらい。
- インスタは、動画をみるくらいで連絡を取ることはない。友達の投稿に
「いいね」をするが、自分が投稿することはない。
- ユーチューブはゲームの攻略の参考にみる。コメントを打つこともある。
- ツイッターでは、趣味のことでフォローしている。自分の年齢より上の方と繋がって
いることが多い。
- ラインでは、友達に知って欲しい情報や、たまに話をしていない友達に1対1で話かけ
ることをしている。
- ツイッターをみることはするが、自分のことを話さない。
- SNSがないと生活は成り立たない。ラインは連絡手段、ツイッターは情報収集、ユー
チューブは暇つぶしに使っている。
- 携帯を持っていなかった頃は、友達との連絡は電話だった。外では公衆電話を使ってい
たので、連絡手段ということに関しては会ってはいらないというものではない。

＜曖昧なコミュニケーション＞

- ラインで悩み事の相談をされることがあるが、文字でやり取りをすると伝わり方が違っ
てくることがあるので、会って話をしたい。
- 文字では、相手によって感じ方が違うことがある。受け取り方が違うことがあるので、
相手の言っていることがわからない場合は、確認している。
- ラインの文字のやり取りで、相手に表現が伝わらず、怒らせてしまい、謝ったことがあ
る。
- 絵文字を送られてきて、怒っているのか怒っていないのか分からず、友達が電話をして
きて怒られたということがある。
- 友人同士が、ライン上で長文の大喧嘩をした際に、別々に自分に相談されて仲介したこ
とがある。
- 自分は、顔文字をつけた方が自分の意思が伝わると思って、絵文字や顔文字をよく使
う。相手の発言に絵文字があると、大体こういうことかなと捉える。
- クラスラインでよく発言する人は、クラスの中でもよく前にでて話している人たちが発
言している。

＜信頼関係＞

- ツイッターでは、自分が繋がりたい特定の子とやり取りをするアカウントを作って、悪

口や愚痴を書き込む友人がいる。

- ツイッターでは、趣味関係のアカウントと友人とのアカウントを使い分けている。趣味のアカウントでは個人情報を書かない。
- ラインの嫌なところは、返信の責任が薄い。気軽に連絡を取れる分溜まっていく。
- ラインで返信がないと心配になる。ユーチューブでコメントを返してくれないと心配になる。
- グループラインでは、皆が発言していても自分は発信しなくてもいいと思うが、1対1で自分が送って既読がつかなくなったら心配になる。
- グループラインのやり取りで、遊ぼうと言っている友達の発信に気付かずにいたら、私とは遊んでくれないのねとメールがあった。そういう子は、ほかのSNSの友人の投稿を確認して何をしているのか調べるとのことしている。
- SNSのやり取りは、実際に会った友達としかしていない。

<親子のコミュニケーション>

- 親とは連絡事項のやり取りをラインでする。
- 何気ないこともラインで送ることができるので、話が進むと感じる。

坂本委員

<SNS使い方>

- インスタは、友達が何をしているかわかるから使う。ツイッターは情報収集。
- 伝わるのは、映像だと思う。ツイッターでは映像の効果を文章で増やすことができる。
- シリアスな事は、直接言う。
- 「いいね」は嬉しいけれども、「いいね」をもらうために投稿しているわけではない。
- クラスのグループラインが朝の20分間に139件来ていた。ストプリというアプリの話で盛り上がっている。
- ラインのほうが相談しやすい、ゆっくりできる。
- ラインはリアルの友達と、ツイッターは情報収集で知らない人でも気に入ったらフォローする。いいねとリツイートをたくさんするが、投稿はあまりしない。インスタは知っている人。インスタは自己顕示欲で、食べ物や旅行先など特別だと自分が思う写真を投稿するが、それほどでもないことは、ストーリーにあげている。インスタの反応は欲しい。
- ラインの返信は相手に合わせて送る。すぐとか、1日2回くらいとか。
- SNSで知り合った友達もいるし、つながりが増えた。グループを作って話をしてまとまりやすくなったと感じる。
- ツイッターは知りたい事ごとにアカウントがある。
- ラインでは、友人が投稿した宿題プリントなどを参考にしている。テストなどの管理もラインでしている。
- 文字よりも写真で投稿するほうがいい。
- スタンプは、ラインの会話を終了するときに使うことが多い。

- 相談は電話か直接がいいが、相談してくる人は長文でくる。
- 親以外の大人と連絡することはない。宿題を提出するような感じがする。

<成長>

- フェイスブックでは、つながりから成長するということが感じられる。

<曖昧>

- グループラインで話が進んでいるときには反対意見は言わない。言っても軽めにする。
- スタンプは、的確な自分の状態を表現できそう、かつ相手に好印象を与えられそうなきに使う。
- 仲がよければ、曖昧にせずにはっきりさせる。
- スタンプがあったほうが、感情が伝わる。
- 意見が対立したときは、ラインでも、グループなら傍観者。1対1なら意見をはっきり言う。
- 対面で話すことを大事にしたいが、SNSでは自分が言いたいことの表現を探しながら自分の本当の感情に近い言葉を選択しながら打っていけるので、話しやすい部分もある。
- 白黒はっきりさせるコミュニケーションは、気の置けない仲間としかできないのではないか。気を使っている相手だと、曖昧なまま進むことがあると思う。
- 曖昧にはしない。ラインのやり取りでも、わからなければ確認する。

<信頼関係>

- 友人との絆はネットでも感じられる。
- あまり話したことがない人でも、インスタの投稿にリアクションがあり、そこから繋がりが広がることはある。
- ツイッターはツイッターの友達、インスタはインスタの友達で、あまりどちらも友達という人はいない。アカウントごとに違う。インスタは学校の友達だけだけど、ツイッターは知らない人もフォロワーにいる。
- ツイッターで繋がっているリアルでは知らない人について、現実のその人がどのような人かわからないが、このアカウントの人は表記されたアカウント名Aさんで、AさんはAさんだし、そこまでだと思う。信頼しようがしまいが関係ない。そもそも、自分が大事な部分を出さないようにしている。ツイッターでは顔写真、名前、住所などをださない。
- 相談ではSNSを使わない。
- 自分はユーチューブをみているだけなので時間を浪費しているが、ツイッターで友達を作って一緒に仕事をしていこうという使い方だったらSNSを使いこなしていると思う。
- ネット上だけの人間関係は実感がないし、話したいと思わない。
- 発言権があるので、グループラインに自分の居場所はあると思う。
- 既存のものを確認することはできるけれども、新たにとか強化は難しい。
- 居場所は、ネット上でも自分が生活していく中で思ったことや考えを聞いてくれる人が

いて、自分のことを見守ってくれる人がいることだと思う。

- 情報とのけんかはしている。出たくない情報が無秩序に広がって欲しくない。私がある人にはどこまで話したかわかっているという関係でいたい。初対面の人がなぜ私のことを知っているのかという状況にはしたくない。

<親子>

- 小さい頃からスマホを使っていると、子どもは、SNSの情報に使われることになりかねない。
- 家族とのコミュニケーションのメインはライン。
- 進路では親の意見を聞いた。生活のこともあり国立に行って欲しいということもあった。学部は自分で決めた。
- 家族以外の頼れる大人が欲しいと思う

笹井会長

<SNS使い方>

- リアルな友達とは、ラインでつながればよい。リアルとの差があるので、インスタではつながりたくない。インスタでは写真を投稿するが、ほとんど知らない人がフォローしている。
- インスタでは、お店や芸能人をフォローしている。友人はフォローしていない。コミュニケーションには利用していない。
- フェイスブックはほとんど使っていない。ただ、フェイスブックで繋がると、連絡をしなくても、知り合いになることができる。ラインでつながる場合は連絡しないとならない。
- ラインは、不特定多数の人とつながることができるが、リアルの友人関係でしか繋がっていない。
- ツイッターは情報収集で使う。自分が気になる考えを持つ人をフォローしている。例えば、ツイッターをしている大学の教授をフォローして、授業では話していないことや考えなどをみることができる。
- ツイッターでは、趣味のアカウントをもち、作品を投稿することをしているが、日常の出来事をつぶやくことはしていない。

<信頼関係>

- フェイスブックは、投稿に対して皆が「いいね」と反応しないとまらない感じがする。
- ツイッターは反応があってもなくてもいいという感じがする。期待をしていないが、投稿した写真に「いいね」があると嬉しいと思う。
- 投稿したことに「いいね」がくることは嬉しい。あまり反応がないと、ネタをかえてみようかなと思うことはある。
- ラインの文章と、実際に会って話す感じとテンションが違うと言われたことがある。文

章にすると、やりやすいということもあるので、キャラを変えるというよりは、自然と変わっている、ということがあるかもしれない。

- SNSでは、自分の見せたいところしか見せないということはある。
- ツイッターでは、このツイートがいいと思って、遡って確認すると趣旨が一貫していないことがあると、信用しにくいということはある。
- インスタで投稿していたことはあるが、友達と自分のことを比較して疲れてしまい、今は投稿していない。
- ラインで文章を書くことが苦手な人はいる。現実にいるコミュ障が、ライン上にもある。逆に、ラインではいい感じなのに、実際と違う人もいる、しゃべるときにはおどおどしていて、コミュニケーションが苦手な人もでも、ラインだとすごい明るい子だなという人がいる。表現できていないだけで、良い子だなと感ずることがある。

<親子のコミュニケーション>

- 仲がいい親子は、距離感をとっているから仲がいい。
- 親が考えていること、価値観が全て正しいとは思っていない。家族でも価値観や生き方が違うことはある。

田中委員

<SNS使い方>

- インスタのストーリーをアーカイブでアルバム代わりにしている。楽しいとき、感情が動いた時に投稿することが多い。悲しいときや辛いときには、適当に文字で伝える。
- 悪口や弱音を言うだけの裏アカがある友人が複数いる。最悪なのは、2人の友人の裏アカを知っていてお互いに悪口を言い合って、自分に助けを求められること。
- SNSをなくしたい。疲れる。入ってくる情報量が多く、疲れる。自分の好きな情報しか入ってこないから偏っているのだろうなとも思う。
- ライン、フェイスブックは、他人との連絡に使うもので、なくてはならないもの。ラインとフェイスブックは使い分けている。ラインは親しい友達と、フェイスブックはとりあえず交換しておく。
- スマホを使わない日を設けるとしたら、予めその時間はスマホを見ないことをツイッターやインスタで宣言しておかないと怖い。
- 基本的に他人の投稿を見ない。フェイスブックもメッセージしか見ない。情報収集でフェイスブックを使う。ただ見るという使い方はしない。
- 悩み相談は、ライン通話でしている。
- フェイスブックは地域関係、趣味の知人が多く、自分の興味のある分野でどのようなことが行われているか知見を広げるためのSNSとして使っている。ラインやインスタとは違い、丁寧に表現している。
- SNSで自分を発信していくことで、自分はこういう人間であるということを表現できる。

- フェイスブックで友達申請してきた人が、知らない後輩だった。いきなり友達申請するのではなく、挨拶を一言いれるなど配慮が欲しかった。実際に会ったときに自分のことをとても知っているように接してきたが、自分に近づきやすくなっているけれども、人間関係としては近くなっているという認識はない。初対面がSNSである場合、実際に会うときにSNSの内容を見て知っていると思っても、礼儀が必要だと思う。
- 「いいね」がこないとあれっとなる。インスタで表示されなくなって心の負担が減った。

<信頼関係>

- SNSは手段であって、会うための約束しか連絡をとらない。雑談をLINEでする意味がわからない。
- SNSで自分が投稿しない理由として記録として自分の主張が残るのが怖いということがある。
- SNSを通じて信頼関係を構築できたという経験がある。2回程度あった人で、会った後にSNSでこの間にはありがとうございましたということを取り取りして、次に会うときには、覚えておいてもらっているという経験である。
- フェイスブックでは自分の成長につながっている。いろんな人が自分の近況をシェアしているので、自分とその人との関係だけでは気づけなかったことが手に入る。そこで知った人やイベントを紹介してもらって今の自分に繋がっている。見知らぬ人からの情報提供やイベントの誘いでも自分が判断するが、参加するケースもある。
- フェイスブックへの投稿はあまりできない。年上の人が見ているので気軽に投稿しづらい。
- 自分の活動を認識してもらうことになるので、同じような活動をしている人に「いいね」をもらうことは嬉しい。数にはこだわっていない。
- 「いいね」を多くもらっている人に関心があるというより、なぜ写真一枚で「いいね」を多くとれるのかということに関心がある。
- ラインは文章なので、あまり気持ちが伝わらない、電話や会って話すことが大切。文章を書くことは苦ではないが、人によって受け取られ方が若干違うこともある。
- フェイスブックでは、意識の高い、活動的な人が投稿するが、そういったことで友人と自分を比較して悩むことはある。劣等感を感じるわけではないが、刺激される。
- 「いいね」でみとめられるというよりは、反応してくれたと感じる。
- SNSがあることで相談のハードルは下がると思う。
- メールは疲れる。型通りにしないとならない。
- 悩みなどは、不特定多数の人に晒すものではないと思う。発信する層を選んでいる。
- SNSで目標を見つけるきっかけになることはある。

<曖昧なコミュニケーション>

- グループラインのやり取りでは、議論の中心にいるときには、発言するが、そうでない

ときはスタンプで済ますこともある。

- スタンプを使わないと怖い感じがする。5歳くらい年上の人とのやり取りで、句読点だけで終わると怖い感じがする。特に自分に非がある場合に、自分の感情でしか文章を判断できないので、余計に怖いと感じる。
- コミュニケーションのとり方は受け身。
- 知らない人にはスタンプや絵文字を使う。よく知っている関係になるとスタンプは使わない。
- 曖昧に終わらせるより、はっきりしたい。
- 返信に困ったときや、どうしていいかわからないときに、意味がよくわからないスタンプを送ることはある。

<親子の関係>

- 親に相談する場面は結構ある。就職の相談についてラインで事前にいって、あとで電話する。親の間では絵文字もスタンプも多用する。
- 重要な意思決定は、基本的には自分でしている。高校進学時に親の言う通りにしなかったことを公開したが、その後の進学や就職について親が自分を尊重してくれるようになった。親は考えをいってくるが、あまり参考にしていない。
- 自分は地方に住んでいたもので、位置情報の把握はいらなかった。近所のおじいちゃん、おばあちゃんが下校を見ていてくれた。
- 地方は、都会より息苦しいところもある。誰かの進学先などすぐに近所に知られるが都会はそのようなことはない。一方で、今はスマホばかりになり、目の前にいる人とコミュニケーションをとらなくなったということは、その生き方は人間らしいのかなと思うと心が貧しくなる気がする。
- 重要な意思決定をするときに参考にするのは、ネットで情報収集してから友人や家族に相談する。ネットの情報を信用するのではなく、他人の話聞く前に準備としてネットの情報を探す。先に調べる。
- 親子の間で、位置情報を使うという同意があればいい。
- 重要な意思決定の場で、大学進学時も、就職先も基本的に親に従ってきた。親以外に信頼できる大人は中学校、高校の先生が一番。
- 自分の母親なら位置情報の把握をしたがると思うが、嫌だというと母のストレスになるので、断らない。フェイスブックも、ラインもすべて開示している。母には、開示すればあなたのストレスにならないと思うから開示すると伝えている。
- 親とは直接話す。ラインは事務連絡だけ。
- 重要な意思決定時に、ネットだけで決めることはない。友人から聞くなど信頼できるネットの情報であれば参考にする。高校と大学の進学も自分で決めた。
- 小学校低学年くらいまでは、位置を捕捉したいということは理解できる。

<これからのこども>

- 一生スマホとともに生きていく子どもたちは、スマホに縛られずにいかに生きていくかということ勉強したほうがいい。いろんなことを学ぶことに時間を使った方がいい、
- SNSの使い方を学校でやった方がいい。最低限のモラルやマナーについては小さいときにある程度やっておいた方がいい。言われたことにいちいち反応しないほうがいい。炎上になると面倒なので自分はすっと引く対応にしている。

西野委員

<SNSの使い方>

- ツイッターは、暇つぶしに見ている。友人の投稿にリツイートで冗談をいうことはある。有名人などフォロワーが多い人で興味ある人をフォローしているが、その人とつながっていることはない。
- グループラインは面倒くさい。サークルに関わる連絡はみるが、反応はあまりしない。事務連絡は流れてくるけれども、議論になったりしない。
- 自分の日常生活の出来事を投稿することはない。投稿に対して返答があっても困る。
- インスタは公開範囲を限定している。友人とインスタのストーリーを使って、動画を投稿したことはある。文字を打つことはなく、手軽だったから。
- 他人の投稿をみても、感情は動かない。自分のことを投稿する基準は面白いと感じたとき。
- ラインは連絡手段だからないと困るが、他のSNSはなくても困らない。
- 自分の悩みを相談するときにSNSを使うことはない。相談したいときには、直接会って話をしたい。顔が見えたほうがいい。
- SNSで自分のオリジナリティを表現することは考えない、自分のオリジナリティは何だろうという悩みはあるが、表現したことはない。
- ツイッターでフォローしている有名人の投稿を見て、目標や夢につながる事に出会えることはある。一方で、ツイッターをみることは時間の浪費につながると思う。いいなと思う投稿を見ても、自分が深めることはしないから。
- ラインより、メールの方がいい。ラインはテンポよく返さないとならないと感じる。既読がつくとかつかないとか、友人にいわれることはないが、気にされているのではないかと思う。家族だったら、既読をつければ読んだよということになる。ラインでの的外れなことを言っている人のことは受け流す。
- ツイッターで絵や動画を投稿している。リアクションもつく。
- オンライン上で、会わずにゲームをする。ゲームで知らない人がつながってきて一緒にゲームをしている。
- ツイッターで募集しているところに暇つぶしで入ることはある。自分では募集しない。
- 普段はリアクションやコメントをしないが、友達に誕生日おめでとうとコメントすることがある。
- 友達が投稿していても、コメントをしないけれども、自分に関係あることが流れている

ときに、少しコメントを打つことがある。

- 友達の投稿を見て、面白いと思ってもコメントをせずに、会った時に面白かったという。
- 学校の友達のインスタのストーリーの動画がたくさんあるので、それをよく見ている。
- インスタのストーリーは24時間で消えるから、手軽に投稿できる。インスタは、写真や動画を載せる機能が簡単にできる。投稿画面から直接動画を撮ってアップできる。加工して文章のせることもインスタのアプリの中でできる。
- ツイッターでは、友達の投稿を見るアカウントと、絵を描いて投稿するアカウントを絵のジャンルで2つと、全部で3つのアカウントを持っている。アカウント別に話をしている人が分かれている。
- ラインを1番よく使う。友達との会話は全てラインでしている。電話もラインでしている。
- ユーチューブの動画を家でずっと見ることもある。ゲームがうまい人のライブ配信をその人が止めるまで、ずっと見ることもある。
- フェイスブックは、本人名義だが、今は自分はそれを求めている。フェイスブックはリアルとネットが共存しており、それを増やしていこうというイメージがある。
- フェイスブックを使っている人が周囲にいないので、使わない。

<信頼関係>

- 匿名のSNSのやりとりに信頼関係が生まれることはあるかもしれない。
- 「いいね」をたくさんもらっている人は、巻き込む人が多いので影響力は大きいと思うが、羨ましいとは思わない。
- ネットの情報の9割は嘘だと思っている。
- 自己満足で投稿しているので、「いいね」を期待して投稿していない。リアルな友達には反応してほしい。

<スタンプ>

- ラインで気持ちを伝える時には、文字がいいけれども、大学生にはスタンプの方が受けがいい。
- 気持ちを伝えるときは言葉がいい。スタンプだけ、絵文字だけはやらない。

<コメント>

- 友達に共感して欲しいことがあると、インスタやツイッターに投稿する。

<相談>

- SNS上でまじめに相談されたら、まじめに返す。まじめなものは長文で書かれていることが多い。

<親子>

- 何か大きいことをやるときには、親の許可がいる。進学先を決めたときもそうだった。せざるを得ない。
- 重要な決定をするときには、親にも聞くけど、いろんな人に聞いて、自分で決める。
- 親と子どもの間で同意があるなら、位置情報をわかるようにしておくことはいいと思う。

墓田委員

<SNSへの適応>

- 自分は、スマホに買い替えたのは最近のことで、全くSNSを使っていない。SNSを使うことは疲れそうだと思っている。
- SNSを使っていても使いこなせているとは思わない。
- ラインはあまりやりとしない。友達や家族とほうれんそう。
- ツイッターは個人的な趣味や情報収集、メモがわり。
- ショートメッセージは家族と。事務連絡だけではなく、大事な話もする。兄弟とはラインも使う。
- ユーチューブは動画視聴、ラインはかぞくとの連絡用、ツイッターは趣味に使う。アメーバは自分でとった写真を載せる。
- ユーチューブは自分を表現する場として使っている。

<承認関係>

- 自分の投稿にたくさん「いいね」が付いたら、認められているという気持ちになる。
- インフルエンサーと呼ばれている人は、ごく一部の人だけなので、人の支持を集めているのは、優れていると感じる。支持を集めるために工夫したり、工夫しなくてもその人自身が持っている能力があると思う。
- 「いいね」がたくさんつく人は、すごいと思うが、優れているということとはちょっと違うと思う。
- 「いいね」がたくさんつく人のことを、羨ましいとは思いますが、優れているかは疑問に思う。優れているというよりは有名人と言う感じ。
- 「いいね」がたくさんもらえると、自分が人から認められていると思える。
- 他人の投稿に「いいね」をするときは、いいものを投稿してくれてありがとう、お礼の意味をこめている。
- 「いいね」をするときは、純粹にこの投稿がいいなと思ってする。
- たくさん「いいね」をされていても優れているとは思わない。
- 「いいね」とされても、自分ではなく投稿した言葉、写真、絵が認められたと思う。
- 友達間の「いいね」は、お礼の気持ちや見ましたという挨拶的な感じ。

<成長について>

- 自分が知らないことを調べ、答えがわかると成長したと思う。情報が正しいかや、取舍選択は必要だと思う。
- 自分が制作したものをインターネットで販売し、いろんな人を買ってもらうことは成長したこととは違うが、前進したと感じる。
- 投稿することで、作品の質が上がった。投稿していないときは自己満足で終わっていた。人に見せることで、人に見せたいという気持ちが強くなり、技術力がみがけるようになった。向上心が生まれた。
- ネットへの書き込みやツイッターのつぶやきなど、自分の言葉に責任をもって発信することが大事だと思う。例えば誹謗中傷など取返しのつかないことがあるので、それに気づけたのは成長だと思う。
- あまり見てくれる人がいなかったとしても、自分が発信したという事実だけでも成長につながったと思う。
- 誰が見ているか分からないので、自分で発言するときは気を付けるようにしている。相手に気を遣うという部分では成長できた。

<信頼関係>

- SNSで信頼関係をつくることは、話をすることはできても、知らない人同士なのできかないと思う。
- 顔がわからないからこそ、言えることもあると思うが、信頼関係は難しいと思う。
- 匿名のSNS上だけの関係であれば信頼関係が成立すると思うが、現実で会う関係とは別の関係だと思う。
- 実際にあった人だと、メールでも信頼できると思う、匿名で全く見ず知らずの人とのやり取りでは信用できないと思う。
- SNSもメールもないことは支障になる。ネットがメインではないが一つの手段として必要なものだと思う。
- 現実で頻繁に人とコミュニケーションをできる人だと支障ないかもしれないが、自分は口数が少なく、他人とコミュニケーションをとらなかつたりするとツールとしてSNSを利用してコミュニケーションをとる。
- ラインで知っている人とコミュニケーションをとれる方がいい。しばらく会っていない人と、電話番号や住所がなくても繋がれる。

<スタンプ>

- 仲が良い人にはスタンプを使うが、仲が良くない人には文字になると思う。関係性にもよるが、言葉だけだと別の意味にとられることがある。スタンプだと表情をおくることができる。
- 軽く伝える時はスタンプで、具体的に書きたいときは言葉になると思う。
- 言葉の方が伝えやすい。

- スタンプは、言葉だけだと重みがあるときに和らげる意味がある。

<SNSで気持ちを伝えるか>

- メッセージのやり取りをする人は、仲がいいので気持ちを伝える。
- SNSでは素直に自分の気持ちは言えない。あたり障りのないことの相談には乗る。SNSだと自分の気持ちを抑えないので言いすぎてしまう可能性があるが、対面していれば多少は抑えられる。
- ラインのやり取りで、よくわからないことを言っている場合はスルー。

<家族とのやりとり>

- 親も自分もSNSをやっていないので、対面か電話でのやり取りになる。
- 面と向かって言いづらいことはラインです。家の中でご飯だよとラインを使うことがある。
- 重要なことを決めるときは、家族や身近な人に相談して、その後ネットで話した内容に近いものを探す。いろんな人に聞くので迷ってしまうことがある。
- 重要なことを決めるときは、親から聞いてそこから近いものを選ぶ。
- 親に気持ちを伝える時にSNSを使うことがある。相談したいことを書いて事前に伝える。伝わらない部分は対面で補足する。
- 親同士が喧嘩したときに、母親に喧嘩をやめたらとかラインする。
- 就職活動で会社の情報をインターネットで収集して、ジョブトレの方に相談している。親には報告している。
- 自分だけでインターネットの情報を調べても、わからないこともあると思うので、いろんな人の言葉を、いろんな人に実際に会って参考にする。
- GPSの位置情報で子どもを確認することは、時代の流れからするとしょうがない。
- GPSの位置情報で子どもを確認することは、小さい子どもの場合は、問題ないと思う。子どもが大きくなって嫌だと言いだしたらやめるべきなのかなと思う。
- GPSの位置情報で子どもを確認することは、過保護で、子どもを信用しなさすぎだと思う。
- GPSの位置情報で子どもを確認することは、安全のためには仕方ないが、子どもが息苦しくなってしまうと思う。位置情報を無効にする方法を探して解除したという例を知っている。親が子どもに出し抜かれてしまう。
- 親以外の信頼できる大人はジョブトレスタッフのほかはいない。
- 信頼できる大人という意味では、SNSではない。実際に対面して話すということはある。
- 大人とのやり取りでは、学校のソーシャルワーカー、学校で知り合った大人、叔母とラインでやりとりすることがある。

藤井部会長

<信頼関係>

- SNSでの友人とのやり取りは、連絡事項のみであるので、友達との信頼関係は、SNSでは深まらない。また、SNSでの出会いが初対面の場合、文字で会話をするようになるが嘘をつくことが多いと思うため、信頼関係は深まらない。
- 信頼関係をSNS上で構築していくという考え方はない。SNSは、信頼関係が現実で構築された人とのコミュニケーションツールのひとつとして使っているため、SNSをすることにより信頼が生まれることや、関係性が濃密になることはないと思う。
- 常にSNSで連絡を取り合うことができるということは、友人関係や信頼関係を深めることに役立つと思う。位置や距離が関係なく、精神的に近い距離にいられる部分があり、常につながっていられるというのは信頼関係に繋がっているのではないかと思う。

<成長>

- フェイスブックでNPO関係などの人と知り合い、活動に参加することは、SNS上で成長したというより、成長するきっかけになっている。
- 人間性の成長ではないが、ツイッターなどで、知らない人と趣味で繋がる場合に、趣味に関する情報やアドバイスをもらいやすく、それが成長につながる面はあると思う。友達のアドバイスも、知らない人からもらったアドバイスも両方とも大事だが、いろんな人からもらうことが大事だと思う、
- SNSでは、経験値的なものは簡単に手に入る感じに見受ける。ユーチューブでは、自分がやってみたいことを実際にしている状況を見ることができる。同じことを自分でやる場合には時間がかかる。文章で読むより、動画の方がノウハウは得やすい。
- 成長になるかはわからないが、SNSで多くの知識をえることはできる。それが正しいかは自分で確認しないとわからないが、知識にはなると思う。情報を得たいと思わずとも、友人がリツイートした他人の情報が自然に入ってくるし、自分が登録すれば、興味のある情報が自動的に送られてくる。
- SNSの「いいね」を多くもらうことが自分を成長させるのかという点について、「いいね」をもらった人が成長するのではなく、「いいね」を与えた人が、相手の投稿によって成長したということを証明するためのものと感じる。「いいね」を多くもらえることは、自分がいろんな人を成長させてあげられていると捉えられるのではないかと思う。
- 自分が「いいね」を押すときは、自分に利益があったなと思うときでないとは押しさない。その投稿が面白いとか、自分のためになったなと思うと「いいね」を押す。また、共感という意味で「いいね」を押すこともある。
- フォロワーが多い人は、優れているというよりは、それなりに支持されている人という認識である。
- 「いいね」をされると嬉しい。成長になるかは、わからないが自分が投稿したものに「いいね」されると嬉しいので、どんな投稿をすればいいのか、写真や文章などを工夫するようになった。

- 「いいね」に関しては、年齢も関係すると思う。高校生の時には友人の投稿に全て押すということをしていた。友達に対して、自分が仲良しというアピールで押すことはあると思う。友達によって、「いいね」を押す、押さないがあると気にする人が実際にいた。

<曖昧なコミュニケーションと人間関係>

- はっきり言いたいことがあったとしたら、相手を否定するようなことは言わないが、間違っていることは言うかもしれない。
- 曖昧なコミュニケーションをとっていることについて、SNSと現実とであまり変わらないような気がする。
- 自分と異なる意見がでてきたときは無視をする。異なる意見というのは、人を傷つけるような、人格を否定するようなことばや価値観を否定するような言葉は言わないし、言われたら無視をする。面と向かっていわれたら返すしかないが、SNSはタイムラグが生じることが当たり前だから無視しやすい。リアルなコミュニケーションをとるよりも自分が傷つかないようにやりやすく、自己防衛という感じである。
- あいまいなコミュニケーションに繋がると思うが、SNSは文字だけなので、もし自分が開いてに意見した時に悪くとられないように、例えば「笑」とつけて表現を柔らかくしたり、誤解されないように気を使っている。
- SNSでは、文章がながくなりすぎないように気を付けている。ラインは、会話の延長上のものなので、短い文章で表現する。自分の意見をぶつけるのではなく、相手の意見も取り入れながら会話をする。
- ラインの会話を終わらせたいときには暗黙のルールでスタンプを押す。

<親子のコミュニケーション>

- 親とラインはしない。メールで事務連絡はある。
- 男女で差があるかもしれない。私（女性）は、友人と出かけている写真を送ることや、雨が降ってきたと家族とラインをしますが、気持ちを話すことはあまりない。
- 親とは、真剣な頼み事や、喧嘩をして謝るときに使う。面と向かってだと、なぜ悪かったかをいわないとならないが、ラインだとすらっといける。
- 進学先や就職先を決定するときには大事なことは直接話す。インターネットの情報も信頼性が高いところしか見ないし、みても参考にするまでで決定打とはしない。大学受験時に参考にしたのでは、予備校など専門にしている人の意見で決めた。

<その他>

(5歳の子にいたいこと)

- 一度ネットに上がった情報は消すことができないということ。
- ネットの世界は、リアルの世界と比べると子どもだからと許されることがない。大人も子供も関係ないということを伝えたい。
- SNSの使い方ではプライバシーに気を付けてほしい。写真を掲載することはどういうことかという認識は持たせておくべきだと思う。感覚さの軽さを重くしたい。
- 自分の経験では、もっと早くSNSをやっていたらよかった。持っていないときにメディアリテラシーを教えられてもわからない。子どものころから活用方法や怖さもしれたのではないかと思う。
- SNSも中身は人間なんだということを伝えておくべきと思う。
- リテラシーだけではなく、ネットやスマホでできることはたくさんあるので、機能の活用の仕方を教えてもらえるとよいと思う。